必然性があり意欲が高まる学習課題の設定と解決への見通しをもたせる工夫

「与える、教え込む」から、子どもの意欲や考えを「引き出す」教師の構えが大事です。

学習課題設定のポイント・・・

「今日のめあては○○です。わかりましたか？それでは自分で考えて」・・・このような導入で、教師の「教えたいこと」を子どもの「学びたいこと」に変えることができるでしょうか？　思考力・判断力・表現力等の育成には子どもの主体的な姿勢が重要なポイントになります。そのためには、教師の一方的な課題提示ではなく、子どもの**「問い」を引き出し、学習課題につなげて**いくことが必要です。

「問い」を引き出すために・・・

子どもの「問い」を課題につなげましょう。

資料等の提示や活動の設定の工夫

＜例＞

○　**資料を少しずつ見せる。**
　一部を隠して見せる。
　→　資料の先を予想させる。

○　**複数の資料を比較（対比）させる。**
　→　違いを問う。
　→　変化を問う。（before after の対比）

○　**事象（現象）の理由を考えさせる。**
　→　事象（現象）の特徴をおさえ理由を問う。

○　**Black Boxによる提示や結果一覧から決まりを見出させる。**
　→　規則性を問う。

○　**既習から未習へ**移ることで新たな疑問を生む。**できる→できる→あれ？**

○　分類したり類別したりする活動の中で**似て非なるものを提示する**ことにより、迷い（問い）をうむ。

○　**条件**を加えて**負荷**をあたえたり、**無理難題**を言ったりすることで解決への意欲を高める。

問いを課題へつなげる

子どもの「問い」を学習課題につなげる発問

○「ということは、みんなが調べたいことは？」

○「ということは、今日は何を考える必要がありますか？」

○「みんなの疑問を整理すると□□という課題になるけどどうですか？」

○「Ａさんの疑問いいですね。それをみんなの課題にしようか？」

具体的な学習課題の例は、次のページをご覧ください。

※　本時の目標と整合性が図られているか十分に吟味しましょう。

※　子どもの思考の流れに添うように学習課題を設定しましょう。

教師による学習課題設定だったとしても・・・

日々の授業において、必ずしも毎時間、子どもから「問い」を引き出し学習課題につなげることができるとは限らず、教師が学習課題を提示することも考えられます。また、技能教科においては、「～しよう」という行動目標になってしまうこともあると思います。

しかし、そのような場合においても、次のように発問を工夫することで、**学習課題を学習の主体者である子どもたちのものとして意識させるようにすることが大事**です。

○「前の時間に課題として残っていたことを思い出してみましょう。」

○「今日は、学級全体として○○というめあてに取り組みたいのですが、どのように学習していけばいいでしょうか。」

○「では、それぞれにどんなことに気を付けて学習するかを考えてみましょう。」

課題解決の見通しをもたせましょう。

子どもが自分で見通しをもてるようにしましょう！

○　**解決方法の見通しをもたせる。**
　→　「こうすればできるんじゃないかな？」「この方法が使えそうだな？」

○　**答えの見当をつける。**
　→　「こうなりそうだな。」「だいたいこのくらいになるかな。」

○　**課題について、調べる視点をもたせる。**
　→　「このあたりから調べれば分かりそうだ。」

○　**課題解決に向けた、学習活動の道筋をつける。**
　→　「初めに～をして、次に～をして、最後に～をすれば、解決できそうだ。」